

編集後記

学会ニュース第95号をお届けいたします。空閑会長の年頭所感にもありました通り、2024年は大変な幕開けとなりました。能登半島地震の発生から1ヶ月経ちましたが、被害の全容ははまだ見えず、二次避難という言葉もすっかり定着しました。被災地域は地縁の深い地域でもあり、福祉に携わる者としてコミュニティの維持と再生に尽力しなければならないと感じています。また、全国にある高齢化率の高い地域の日常生活圏で、災害時の備えの必要性を改めて感じました。

今号では、韓国社会福祉共同学会大会で研究発表された佐々木隆志会員、門下祐子会員、張思銘会員から報告をいただきました。福祉政策に違いはあれ、福祉的課題に共通点の多い日中韓3か国の研究者がこれからも交流を深めていくことが重要だと感じました。地域ブロック情報では関西地域ブロック、中国・四国地域ブロックから報告いただきました。シリーズ【日常から離れて】は木下武徳先生にご寄稿いただきました。外見的特徴に現れないルーツの話は大変興味深く拝見しました。多様性、多文化共生が言われるようになってだいぶ経ちますが、日本でも人種的多様性は想像以上に豊かなのかもしれないと思わせる内容でした。

さて、日本社会福祉学会は今年設立70周年を迎えます。これからも学会運営に皆様のご協力をお願いいたします。

大澤 朋子(実践女子大学)